細胞性粘菌における初期発生因子の種間互換性

早川（芝野）郁美，井上 敬

（京都大・院理・植物）

［要旨］ 小型の土壌性アメーバである細胞性粘菌は，飢餓状態になるとクオラムセンシングファクターである CMF を放出し，細胞密度が閾値を超えて初めて子実体形成過程を開始する。本研究では細胞性粘菌が細胞密度感知に用いる因子について，種間互換性の検証を行った。各種の細胞性粘菌を一定時間飢餓状態に置き，その上清が別種の細胞性粘菌の発生に与える影響を調べた結果，いくつかの種の組み合わせにおいて発生が早まり，より低密度でも子実体形成が可能になった。今後は因子を同定し，生態的意義についても考察する。